

空調一⑧ 冷却塔ファンの起動設定温度の変更で約5%の省エネ！

◆ 病院(延床面積 13,900㎡)の事例

吸収式冷温水機の冷却塔ファンの起動設定温度が、冷房負荷の変動に関わらず常時一定になっている。

冷房負荷の高い時期(7、8月)の冷却塔ファン起動設定温度を2℃低減すると…

- ★ 年間 1,600m³ の省エネ！ (都市ガス)
- ★ 年間 16万円 のコスト削減！
- ★ 投資 0円！

使用記録より、7、8月のガス使用量は、31,995m³/年

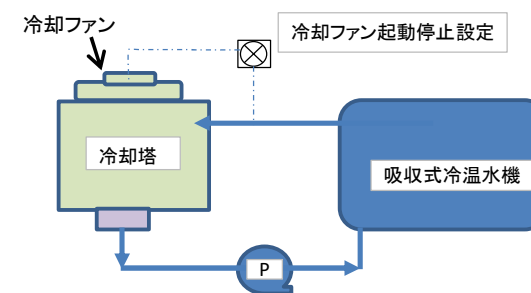
削減効果 $1,600\text{m}^3/\text{年} = 31,995\text{m}^3/\text{年} \times 5\%$
削減額 $276,560\text{円} = 1,600\text{m}^3/\text{年} \times 172.85\text{円}/\text{m}^3$
CO₂削減量 $3.7\text{tCO}_2/\text{年} = 1,600\text{m}^3/\text{年} \times 45\text{GJ}/\text{千m}^3 \times 0.0509\text{tCO}_2/\text{千kWh} \div 1,000$

※ファンの稼働時間の増加による電力増加は無視しています。



省エネのポイント！

吸収式冷温水機の冷却水入口温度を下げると、空調効率が向上し、ガスの消費量を削減できます。ただし、温度を下げすぎるとシステムに支障を及ぼすため注意が必要です。(26℃以上が目安)



吸収式冷温水機の冷却水の流れ